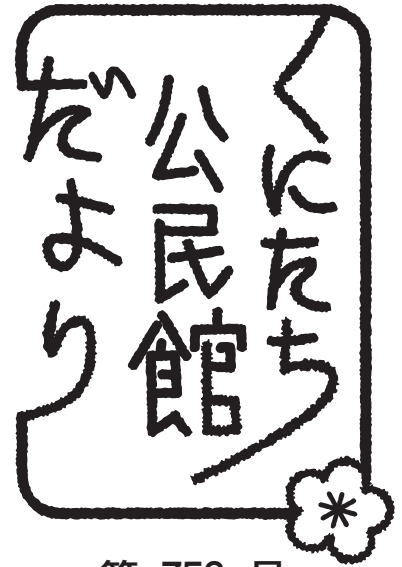


# 歩いて 学んで

## 身近な地域の



## “いいね”を見つけよう！



第 753 号

2022年11月5日

(令和4年)

「くにたち公民館だより」  
ホームページのQRコード▶



発行

国立市公民館

〒186-0004

国立市中1-15-1

TEL 042-572-5141

FAX 042-573-0480

休館日：毎週月曜日

### 身近な都市環境を快適に維持する大切さ

「環境講座「エコな生活、って本当に環境にいいの？」  
環境問題に対して私たちがすべきことは」を受講して

とま 美緒

まちを歩くフィールドワークが

興味という講師の吉永明弘さん  
(法政大学)の講演は、来館前に  
国立と国分寺の市境にある古民家  
カフェに行き、竹やぶの中に昭和  
初期の洋風建築が再生された素晴  
らしいところだったという話題か  
ら始まった。

「エコな生活って本当にいい  
の？」というタイトルは、日常の  
暮らしの中で、節電やごみの分別



講師の吉永明弘さん

などできることを少しでもと実践  
していた私に、ひっかかった。で  
は、何をすべきなのか。「エコハ  
ウスは郊外に建てられているが、

## 今月の公民館 (11月~12月)

- 10日(木)夜 ブッククラブ 奥泉 光 『東京自叙伝』
- 19日(土)朝~ 地域史講座 「くにたちの魅力再発見  
~『アメニティマップ』を作ってみよう~」
- 20日(日)昼~ 院生講座 「Konzertのかたち  
—音楽家メンデルスゾーンの功績—」
- 27日(日)朝 親子で遊ぼう・考えよう  
「幼児向け科学あそび」
- 12月3日(土)朝~ 地域防災講座  
「今日からはじめる明日への備え」
- 11日(日)昼 共生社会のマナビ  
「『インクルーシブ教育』ってなんですか?」
- 22日(木)夜 図書室のつどい 『夢を読み解く心理学』

講座の開催状況などに変更があった場合は、公  
民館入り口付近への掲示や、ホームページでお知  
らせします。ご不明の点はお問合せください。



公民館 ☎ (572) 5 1 4 1

公民館の状況▲

テラスハウスや集合住宅のほうが、  
外接する壁が少ないからエアコン  
の効きがいい。戸建てを作ってエ  
コハウスと言うことや、空き家が  
たくさんあるのに新築をたくさん  
作るのは環境によくない。リフォ  
ームへシフトしていくべき。節電  
も間違いいではないが、もっと社会  
のしくみを考えることが重要」と  
の指摘が印象に残った。個人の努  
力だけでは環境問題は解決しない。  
ローカルな変化を重ねていくこと  
で、グローバルな変革を目指す。

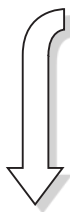
世界人口の半分が都市に住んで  
いる現在、ローカルな環境とは都  
市環境であり、それを快適に維持  
することが、私たちができる貢献  
とのことだった。  
地球規模の大气汚染、水質汚濁  
等、環境問題の情報は個人の無力  
感にもつながるが、「よその話」  
と考えるのではなく、自分が動け  
ば変えられるという意識を持てる  
ようになるためには、最初は身近  
な環境の問題から世界の問題へと  
考えるべきとのこと。  
環境破壊を止められない原因は  
場所に対する無関心なので、第一  
歩は地域の場所に注目し、こうい  
う価値があるとと言えるようにして  
おくこと、との話に共感した。  
都市に緑地を残すことは自然保  
護という話もあり、国立は大学通  
(2ページへつづく)

りや一橋大学、また南部にも豊富な自然が残っているが、それらを市民が愛し、少しでもいい形で残していくことが重要であると改めて感じた。各人が快適に思う生活環境を地図に落とし込む「アメニティマップづくり」を通して、私たちのすべきことを考えていく手法も興味深く、ぜひ地域の仲間とやってみたいと思った。関連講座にも期待したい。

(2022年8月6開催)



私たちが残していきたい快適な生活環境とは？ 実際に地域を歩いて考えてみませんか。



私たちが環境のためにできることは？

〈地域史講座・フィールドワーク〉

## くにたちの魅力再発見！～「アメニティマップ」を作ってみよう～

講師 吉永 明弘 (法政大学・環境倫理学)  
協力 国立まなびあるきの会

皆さんにとって“くにたち”はどんなまちでしょうか？ 毎日歩く道でふと立ち止まってみると、今まで気づかなかった・知らなかったまちの姿が見えてくるかもしれません。

今回の地域史では、第1回で都市の魅力を探す「アメニティマップ」の作り方についてお話しいたします。第2回は実際に市内を歩いて地域の魅力を発見し、第3回で発見した箇所をマップに落とし込んでみます。一緒にアメニティマップを作成しながら残していきたい地域の魅力を発見してみましょう。

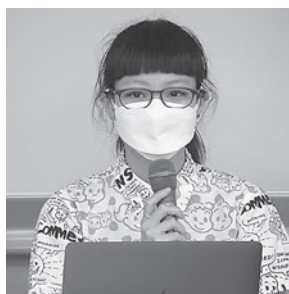
定員 15名  
(原則3回続けて参加できる方、申込先着順)  
申込先 11月8日(火)朝9時～ 公民館 ☎(572) 5 1 4 1

第1回 「歩いて読み解く地域の魅力」(座学)  
とき 11月19日(土)朝9時～11時  
ところ 公民館 3階講座室

第2回 フィールドワーク  
とき 11月26日(土)朝10時～12時ごろ  
集合 公民館 3階講座室  
解散 谷保駅

持ち物等 歩きやすい服装、飲み物、筆記用具  
※少雨決行。ただし荒天の際は中止。  
詳細は第1回目講座終了時にご連絡します。

第3回 ワークショップ  
とき 12月4日(日)朝10時～12時  
ところ 公民館 3階講座室



講師の新井晃さん

講師は一橋大学院生の新井晃さん。自己紹介によると、現代美術、特に特異な場所に置かれた作品を研究対象にしているそうです。

「我々にとって、絵画や彫刻などを見ることのできるのには、一般に美術館ですが、町の公園や道路にもありますね。」講師はくにたち公民館付近の美術作品から話し始めました。大学前交差点付近にある「風の球体」、公民館前にある「座牛マケット」(谷保天満宮にあるものの試作)を例に、視覚や作品の背景により印象が変わってくることを説明されました。

展示のやり方の変遷については、初期の美術品の展示は王侯貴族や富裕層が権力を誇示するために客人に見せるためのものでした。そのやり方は雑多で、壁から天井まで、ただ並べるだけのものでもした。その後、大英博物館など、次第に一般に公開してゆきます。フランス王立アカデミーでは、上段に価値が高いとされていた歴史画をおき、最下段に低価値の静物画を置くという整理がなされています。現在のスタンダードな展示の仕方、四方が白い壁、いわゆる「ホワイトキューブ」はニューヨーク近代美術館からだそうです。最近では、絵の具などの素材以外の麻ひもや鉄棒などを用的、

### 展示は時代と共に

— 院生講座「背景を越えて」を受講して —

今村 三郎

くにたちのまちを魅力的にしているものの一つと言えば、一橋大学。国立市公民館では一橋大学と連携して大学院生による講座を定期的に開催しています。今月の開催にあたって7・8月に実施した院生講座の参加者の声をご紹介します。



2日目はヴェルサイユ宮殿を中心に、歴史的建造物と現代美術の展示のあり方について話が進んでゆきます。2000年以降世界遺産など歴史的な建造物を活用した展示が増加したそうです。ヴェルサイユ宮殿もその代表であり、初めはルイ13世により別荘として建てられました。その後、フランス革命を経て、一般に美術館として公開されました。しかし、2003年、イラク戦争等の影響により入場者数が減り、その対策として、現代美術の展示がはじめられたのです。それが歴史的建造物を背景に現代美術を展示することの



展示空間が美術作品に与える影響をお話いただきました

また美術館という枠組みを超えた作品も作られるようになりました。その代表的なものとして玄武岩を用いて、ブルドーザなど土木機械で海上に作った、らせん状作品「スパイラル・ジェットイ」を紹介されました。こうなると作品の評価も含めて、美術品としての存在の是非についても考えさせられます。

是非への論争となります。最後には作品への塗料の吹き付け等の破壊行為も行われました。これに対して歴史的建造物の背景にも考慮した作品を展示するといったコミッション・ワークという方策もなされてきています。例えば講義の中にあった、二条城に展示されたバルーンの大根。涅槃と題されたものは江戸時代の伊藤若冲の作品によく接続した作品におもわれました。これは現代美術の1つの行き方ではあります。ただこれも行き過ぎると、作者のオリジナリティを尊重する立場からすると論議もありそうです。講義が終わって思いました。美術というものは歴史とともに移りかわってゆくものではないのでしょうか。

最近ニュースで報じられたこととして、世田谷のサザエさん一家の彫像へのいたずらがあります。波平さんの髪の毛がとられてしまったのです。本題の破壊行為に通じるものです。確かにその背景やレベルは違いますが、美術品への冒涇であるのは確かです。私の頭にあるものが寂しくなったことを考えるとなおさらです。

(2022年7月24日・

8月7日開催)

〈親子で遊ぼう・考えよう〉

## 幼児向け科学遊び

講師 山田 修平

(NPO法人東京学芸大子ども未来研究所)

うがい薬に何を混ぜると「透明」になるの？ 空気鉄砲や手回し発電が簡単に作れる？

今回は、家庭にもある身近な素材を使って、親子でわくわくしながら楽しめる科学遊びを行います。安心安全な内容です。親子で驚きを共有し、遊びながら科学を楽しんでみませんか。



とき 11月27日(日) 朝10時~12時  
ところ 南市民プラザ 多目的ホール  
持ち物 お手拭き、飲み物

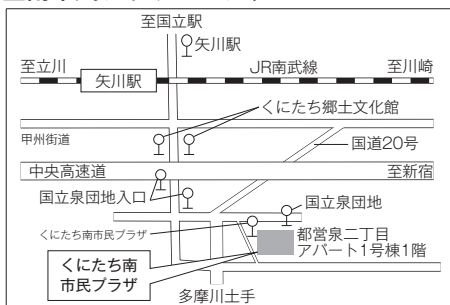
対象・定員 子ども(3歳から小学校中学年まで)と保護者10組(家族単位です) ※応募者多数の場合抽選

※市内在住・在学・在勤の方、初めて参加する方優先

申込先 11月5日(土) 午前9時~11日(金) 午後9時までの間に、右QRコードよりお申込みください。



### ■南市民プラザへのアクセス



\*JR南武線矢川駅より徒歩15分  
\*立川バス「国立泉団地」バス停下車1分

〈一橋大学・院生講座〉

Konzertのかたち

—音楽家メンデルスゾーンの功績—

講師 鳥井田 詩乃 (一橋大学大学院生\*)

「クラシック音楽」と聞いて何を思い浮かべるでしょうか。バッハの受難曲？ ベートーヴェンの協奏曲？ シューベルトの交響曲？ 現代の演奏会ではこうした「古典」の作品が演奏されますが、19世紀のコンサートは流行音楽が奏でられる場でした。演奏会に「古典」の音楽をもたらす契機となったのは、19世紀の音楽家フェリックス・メンデルスゾーン・バルトルディの活動です。ドイツ語では「演奏会(コンサート)」も「協奏曲(コンチェルト)」も共にKonzertといますが、本講座では、演奏会の花形であるKonzert(協奏曲)を例に挙げ、Konzert(演奏会)の改革者メンデルスゾーンの功績を辿ります。

前篇では、メンデルスゾーンの生涯や19世紀の演奏会事情について整理します。後篇では、メンデルスゾーンの協奏曲の構造から、彼の目指した演奏会を考えていきます。\*本講座は音楽鑑賞を主としていません。ご了承ください。

とき 11月20日、12月11日(全2回)  
いずれも日曜日、昼2時~4時

ところ 公民館 3階講座室 定員 25名(申込先着順)  
申込先 11月8日(火)朝9時~ 公民館 ☎(572) 5141

\*一橋大学大学院生による講座

国立市内の一橋大学では、研究者を目指す大学院生が日夜研究に励んでいます。そこで公民館が架け橋となり、若手研究者と地域社会との交流講座を続けてきました。最新の研究動向に触れるもよし！ 修行中の院生にアドバイスするもよし！ 院生が講師となって専門分野をご紹介します。

〈図書室のつどい〉

# 夢を読み解く心理学

お話 松田 英子 (東洋大学)

みなさんは昨夜どんな夢を見ましたか？荒唐無稽で面白い夢、「夢でよかった～」とほっとしながら目覚める恐い夢、「夢だったのか～」とつぶやいてしまうような幸せな夢。時には素晴らしいアイデアの源泉となり得る夢、稀に「あっこれは夢だ！」と夢の中で気づく夢。

1日の1/3を睡眠にあてる人なら人生の1/12は夢を見ていると言われます。そもそも「夢をみる」という現象は何なのでしょう。思いもよらぬ人や物が出てくることもある夢は、ある意味自分から自分へのメッセージとも言えると心理学がご専門の松田さんはおっしゃいます。

人の脳と睡眠の仕組みから夢のメカニズムを知り、自分の記憶の中の手がかりをうまく使って、心の奥深くに潜む考えや希望、悩みを見つけて、今よりもう少し睡眠を楽しみ、健康で幸せに生きる心理学的ヒントを見つけてみませんか。

〈松田さんの本〉

表題作 (ディスカバー・トゥエンティワン)、『はじめての明晰夢』(朝日出版社)ほか

とき 12月22日(木)夜7時～9時  
ところ 公民館 地下ホール 定員 50名(申込先着順)  
申込先 11月22日(火)朝9時～  
公民館☎(572) 5 1 4 1

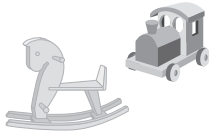
## 来年度、保育を希望するグループは お知らせください

公民館で活動している市民グループに継続的に参加する場合に限り、活動時間中に公民館の保育室で保育を行います。

来年度(2023年4月～)保育を希望するグループ、考えているグループは1月末までに公民館へお知らせください。

〈開室時間〉

火曜日～金曜日 午前10時～12時  
午後2時～4時  
土曜日 午前10時～12時



〈要件〉

国立市内在住の学齢前の子ども。  
毎週火曜日、毎週水曜日というように定期的に通えること。



\*詳細は公民館へお問い合わせください。  
公民館☎(572) 5 1 4 1

〈地域防災講座〉

# 今日からはじめる明日への備え

講師 小野 修平

(ジョージ防災研究所防災アドバイザー)

家庭での備えから、避難所運営、ペット防災まで様々なテーマの防災講座の講師を務め、学校から福祉施設、マンションまで幅広く防災コンサルティングを行ってきた小野さんに地震への備えについてお話を伺います。普段は忘れがちでも、地震は誰もが直面する可能性があります。この機会にぜひ自分でできることを考えてみませんか？

第1回は大地震発生から6時間以内に起こりうる出来事を、カードゲーム方式で疑似体験していただきます。また、具体的なイメージがない方も多い実際の避難所生活についてもお話を伺い、自分や家族を守るために必要な行動について考えます。

第2回は水、トイレ、食料など、生活する上で欠かせない事柄について、普段からどんな備えが必要かについてお話を伺います。さらに、災害時に多い打撲や出血に対処するための三角巾の使い方も体験していただきます。

とき 12月3日、10日(全2回)  
いずれも土曜日朝10時～12時

ところ 公民館 3階講座室

定員 20名(申込先着順)

申込先 11月9日(水)朝9時～  
公民館☎(572) 5 1 4 1

協力 KUNIBO

(くにたち地域外国人のための防災連絡会)



〈くにたちブッククラブ 感傷から遠く離れて〉

## 奥泉光『東京自叙伝』

(集英社文庫)

講師 佐藤 泉 (青山学院大学・日本近代文学)

とき 11月10日(木)夜7時半～9時半

ところ 公民館 地下ホール

定員 30名(今年度すでに申込済の方は申込不要です。)


申込先 公民館☎(572) 5 1 4 1

\*この講座はあらかじめ作品を読んできて、参加者が「読み」を出しあいます。そのあと講師のお話を聞きます。

## 公民館へご来館の際のお願い

- ・自宅で検温してからお越しください。(発熱37.5℃以上、咳、咽頭痛等の症状のある方はご来館をご遠慮ください。)
- ・マスクを着用してください。
- ・石けん等による手洗いや消毒液による手指の消毒を行ってください。
- ・会場はこまめに換気してください。

## ー1月(ロビー2月分) 会場調整会のお知らせー

申込書のポスト投入期間	11月5日(土)～24日(木)
公用使用の貼り出し	11月10日(木)頃
予約の重なりのある 団体の掲示開始日 (国立市 HP にも掲載)	11月26日(土) ▶重なり状況 
会場調整会	12月3日(土)朝10時～

- ・予約の重なりのある、なしに関わらず、電話による連絡はいたしません。(ご不明な点は、公民館へお問い合わせください。)
- ・会場調整会へは、予約の重なりのある団体から手洗い・マスク着用等の感染症対策のうえ、第1希望の会場がとれなかった場合の別の候補日も想定して、活動日を決定できる方1名がご参加ください。

公民館 ☎ (572) 5 1 4 1

会場調整会は朝10時  
までに受付を済ませ  
てください。



〈共生社会のマナビ〉

### 「インクルーシブ教育」ってなんですか？ ～「共に学ぶ学校」の理想と現実を考える～

講師 堤 英俊 (都留文科大学)

ファシリテーター 諏訪 玲子

(シェアリング・ラーニング)

しょうがいの有無に関わらず個性豊かな一人ひとりがその人らしく生きていく上で、教育はとても重要な役割を果たします。障害者権利条約(2014年に日本は批准)では、「あらゆる段階におけるインクルーシブな教育制度」を規定しており、その履行に関する審査を行った国連の障害者権利委員会が、今年の9月、日本政府に対して、「インクルーシブ教育の権利を保障すべき」との勧告を出しました。他方、日本では特別支援学級・学校の充実を求める声も増えています。

インクルーシブとは、「一緒にいる」という意味だけではなく、しょうがいの有無、性別や国籍などが異なるさまざまな人がありのままに参画できる、そうした社会や教育の姿を求めています。改めて「インクルーシブ教育」とは何なのか、共に学ぶとはどういう事なのか。その理想と現実について、講師の堤さんのお話を伺い、共生社会の在り方を一緒に考えたいと思います。

〈堤さんの著書〉

『知的障害教育の場とグレーゾーンの子もたちーインクルーシブ社会への教育学ー』(東京大学出版会)ほか

とき 12月11日(日)朝10時～12時

ところ 公民館 3階講座室

定員 25名(先着順)

申込先 11月11日(金)朝9時～ 公民館 ☎ (572) 5 1 4 1

### 古典への招待

〈職員不定期コラム 公民館の窓〉

「古典」の講座では、テーマを決めて5回の連続で開催されている。「古典」と聞いて最初に思い浮かべたのは、高校時代の授業での「難しい」というイメージであった。そのような先入観をもって臨んだ1回目は、講座担当としての緊張感が強かったせいも「難しい」という感覚はなかった。それ以降は、講師による詳しい時代背景や当時の人々の生活状況等の説明が分かりやすく、親しみを感じるものであった。

もちろん古典の「難しさ」という事実は変わりないのであるが、講師と参加者とのやり取りをみていると、「勉強」のイメージしかなかった古典が「学び」に変わり始めた自分がいた。個々の講座の専門知識があるに越したことはないが、自ら学ぶ参加者と一緒に学ばせていただいていると、古典の魅力が共有されていく感覚が生まれていく。これが共に学ぶ面白さのように思う。まだまだ足りないことばかりではあるが、今までの自分、そしてこれからの自分の生き方を考えるきっかけを得られたことは、自分にとって大きな収穫である。

(T・S)

### 公民館運営協議会報告

10月11日(火)第33期第24回定例会を開催。委員15名、館長、職員2名出席。傍聴人11名。

前回事務録確認

○若干の修正を確認した。

報告事項

○公民館だより編集研究委員会、社会教育委員の会、東京都公民館連絡協議会より報告があった。

○東京都公民館連絡協議会

10月1日(土)国分寺本多公民館にて「コロナ禍における公運審の動きと見えてきた新しい公民館について」の研修があり、委員6名、館長が参加。

協議事項

○「新型コロナウイルス感染拡大

時における教育機関としての公民館事業について」の答申提出に向けて添付資料の説明、前回指摘された部分を確認後、委員長から館長に提出した。

○市長、教育長への要望書案を確認し10月末までに届ける事を了承。

○「公民館だより」について12月号に第33期公運審活動報告と第34期公運審委員の紹介、2023年1月号に答申内容を掲載する予定を確認。

○第33期公運審委員、館長、職員各自振り返りと感想を述べ、拍手で今期最後の定例会を終了した。

次期34期公運審第1回定例会は11月8日(火)夜7時15分から地下ホール。感染予防の上、傍聴歓迎。  
(山口)

# ひろば



## フルーツ会員募集『桜音の会』

秋の市民文化祭での演奏会に向けて、一年かけて曲を仕上げます。フルーツの好きな方、私達と一緒に合奏を楽しみませんか？  
日時 第2・4火曜日 夜6時  
場所 富士見台地域防災センター  
連絡先 橋本090(717) 6380  
メール funkyfassy@gmail.com

## 国立ファンタービレ

上手くなくても良いんです。大きな声で歌いましょう。とても元気になるます。コンサートやイベント満載の楽しいコーラスグループです。連絡お待ちしております。  
日時 第1・3金曜日1時〜3時  
場所 矢川集会所  
連絡先 田野崎(572) 1570

## ターゲットバードゴルフ協会

ゴルフ大好きな方、バードゴルフに参加しませんか。羽根付きのボールを打ち打数を競うゴルフゲームです。運動不足解消のために皆さんの参加をお待ちしています。  
日時 毎週(木)昼12時(金)朝9時  
場所 谷保第三公園 野球場  
連絡先 浅見(577) 5970

## グリーンコーラス公開練習

素敵なハーモニーと一緒に楽しみませんか。老若男女どなたでも歓迎です。今は「ユレイズミーアップ」「群青」等歌っています。練習日は第2・第4水曜日です。  
日時 11月9日(水)朝10時〜12時  
場所 公民館 地下ホール  
連絡先 権田090(3687) 4066

## 映画会とシンポジウム「くにたち公民館と市民自治(文化祭企画)」

映画『町の政治(岩波1957年30分)シンポジウム』主権者としての学び 荒井文昭都立大教授他。映画だけでもどうぞ。公民館をまわる会  
日時 11月12日(土)昼12時45分  
場所 公民館 地下ホール  
申込・連絡先 田島(576) 4015

## 数学を楽しむ会(11月期)

電卓を用いた数学遊びや確率に関する興味深い性質を、お話しします。数学に関し意外な事実が分かります。どなたでも気軽にお越しください。参加の方は、お電話を。  
日時 11月12日(土)26日(土)昼1時  
場所 公民館 音楽室  
連絡先 山本(572) 1028

## くにたち国際友好会WING

11月の国際理解講座は、一橋大 学客員教授で、前フイリピン・アテネオ・デ・マニラ大学日本研究科長のチェンチュア・カールイアン・ウイさんのお話。要予約。  
日時 11月19日(土)夜7時〜9時  
場所 公民館 音楽室&ウエブ  
連絡先 西江070(902) 7838

## マインドフルネスを楽しむ会

アメリカのゲーグルやフェリスブックなど大企業の研修でも導入しているマインドフルネスを体験してみませんか。参加費無料。誰でもお気軽にご参加ください。  
日時 11月20日(日)朝10時半〜12時  
場所 公民館 中集会室  
連絡先 酒井080(5880) 3095

## くにたち混声合唱団ときわ第44回定期演奏会のご案内

混声合唱曲集「ふるさとのうた、いのちのうた」より。モーツァルト作品。さとうきび畑、この空よいつまでも等予定。お聴き下さい。  
日時 11月23日(水)夜6時開演  
場所 小金井 宮地楽器ホール  
連絡先 永井080(5414) 2007

## 24回人物画の会

コロナにも負けず日頃かきためた人物画その他をご覧ください。絵画を交え、色々なお話が出来るでしょう。楽しいです。  
日時 11月25〜30日朝10時〜夕5時 初日昼1時 最終夕4時迄  
場所 芸小ホール ギャラリー  
連絡先 榎本(571) 0385

## 〈サークル訪問373〉『言の葉』会

開始時間を少し過ぎて講座室のドアを開けると、16名の参加者の方が真剣な面持ちで資料を見ながら先生の話を聞いていた。榎本修先生の声だけが響き、学級委員の様な気の利く女性に資料や席などを教えていた。まるで授業に遅れた学生の様な気分でした。

18ページもの資料のトップには「催馬楽」とある。雅楽風に編曲された民謡のことで文献に初めて登場するのは貞観元年(859年清和朝)などと手書きの補足が書き込まれている。かなり難しそうなお内容だが、多くの書籍から選び出した資料を参加者の興味に合わせて編集し、時間をかけて丁寧に作られているのを感じた。

この会は10年前に元都立高校の教員仲間だった榎本先生(国立高校)と八覚さんで発足、今回で76回になる。

会員数は30名位。先生の詳細な説明と人柄に惹かれて続けて来られる方が多く、コロナ禍、猛暑の中でも会場定員いっぱいになる。

今回のテーマは、「中古・中世の朗誦・歌謡の系譜」「和漢朗詠集」「梁塵秘抄」「閑吟集」だったが、これまで、夏目漱石、宮

沢賢治、チェーホフなど多彩に古典・近代文学を取り上げてきた。原文の抜粋等を読んで、年譜や資料を使い、時代背景などと共に解説。榎本先生の深く温かみのある人間的視点からの読み取りが好評。最初の2時間位を講義、後の30分位で参加者の質問や感想を話し合い、最後は盛大な拍手で終わる。国立高校のような国語の授業を体験したい方はぜひ。(7月・8月は夏休み)

日時 月1回(木)昼2時〜5時  
場所 公民館(講座室など)  
連絡先 八覚 080(6621) 4539  
(文・写真 飯塚恵)



学生時代にワーブ!